

スピード
世界選手権

押切、初日総合4位

高木美は500で首位

【ベルリン時事】スピードスケートの世界選手権は5日、ベルリンで開幕して男女各9種目が行われ、女子の日本勢は押切美沙紀(富士急)駒大苫小牧高、中札内中出)が80・253

点で総合4位となったのが最高だった。500メートルで2位、3000メートルで6位に入った。

5000メートルの高木美帆(日体大―帯南商高出)は総合5位、菊池彩花(富士急)は同8位。マルチナ・サブリコバ(チェコ)が79・305点でトップに立った。

5000メートルと5000メートルが行われた男子は中村奨太(ロジネットジャパン)が総合16位、ウィリアムソン師団(日本電産サンキョー)が同18位だった。総合首位はスベン・クラマー(オラ

ンダ)。

大会は2日間で男女各4種目が実施され、タイムを基にした総合得点を争う。

女子500メートル
3位まで独占
日本勢

▽:日本女子が最初の種目となった500メートルで1

3位を独占した。今季、ナショナルチームでオランダ人コーチの指導を受け、スケート王国の技術やメンタル面を含めた調整法が身に付き始めて結果につながった。

1位の高木美は大会前は調子は決して良くなかったと言っが、「悪い中でも、

どれだけできるか前向きにいきたい」と気持ちを切り替えて臨んでいた。強豪の欧州勢が得意とする長距離種目でどれだけ食らい付けるか。5000メートルのある2日目に真価が問われる。

満足いくレース
押切

▽:2種目を終えて、日本女子最高の4位につけた押切は6位となった3000メートルを、「久しぶりにいいレース。すごく満足。ずっと大会に向けて合わせ切れないのは反省。

たので、うれしい」と満足そうに振り返った。ベルリン入りするまでは調子が悪かったそうだが、

カーブが急なリンクとの相性が良く、「気持ちをかなり切り替えられた。向上きな状態を感じ始めており、「次のシーズンにつながるレースをしてきたい」と、最終日の2種目に向けて意気込みを示した。

気持ちで何とか
高木美帆の話

悪い中でも気持ちで何とか持つていったかなという部分がある。それも大事だが、大きい大会に向けて合わせ切れないのは反省。

フオーム意識を
菊池彩花の話

はなかつたが、上で戦うには全然話にならない。フォームの維持を意識してやりたい。

【男子】▽5000メートル ①テニス・ユスコフ(ロシア) 35秒84②ベッコ(フルウエー) 36秒18③ニエジヒエスキ(ポランド) 36秒24④中村奨太(ロジネットジャパン) 36秒49⑤ウィリアムソン師団(日本電産サンキョー) 36秒94

▽5000メートル ①スベン・クラマー(オランダ) 6分14秒13②ペデシェン(フルウエー) 6分16秒89③フロクハイゼン(オランダ) 6分17秒80④ウィリアムソン師団(日本電産サンキョー) 6分37秒60⑤中村奨太(ロジネットジャパン) 6分41秒28
▽第1日総合得点 ①スベン・クラマー(オランダ) 73・953点②フロクハイゼン(オランダ) 74・240点③ペデシェン(フルウエー) 74・479点④中村奨太(ロジネット

トジャパン) 76・618⑤ウィリアムソン師団(日本電産サンキョー) 76・700
【女子】▽5000メートル ①高木美帆(日体大―帯南商高出) 38秒93②押切美沙紀(富士急) 38秒95③菊池彩花(富士急) 39秒34

▽3000メートル ①マルチナ・サブリコバ(チェコ) 3分58秒11②アスト(オランダ) 3分59秒43③デヨンク(オランダ) 4分2秒88④押切美沙紀(富士急) 4分7秒82⑤高木美帆(日体大―帯南商高出) 4分9秒04⑥菊池彩花(富士急) 4分10秒75

▽第1日総合得点 ①マルチナ・サブリコバ(チェコ) 79・305点②アスト(オランダ) 79・315点③デヨンク(オランダ) 79・920点④押切美沙紀(富士急) 80・253点⑤高木美帆(日体大―帯南商高出) 80・436点⑥菊池彩花(富士急) 81・131